



「普天間飛行場⑦」

「はじめに」 普天間

三行場の北東側、宜野湾中学校グラウンド裏手の緑地帯、字赤道に所在する谷間（シキローと呼べられ小川が流れています。市教育委員会がこの一帯の表面踏査を実施した際、戦前・沖縄戦までの墓地・畑・道の跡などが確認されました。その中でも、普天間飛行場内で初めて確認された印部土手と印部石について紹介します。

**印部土手と印部石** 琉球王府が一七三五年から五〇年にかけて行った土地測量の際、基準となる地点に石灰岩を巡らした「土手」と「印部石」と呼ばれる石碑が設置されました。碑には、土手が所在する原名と、順序を示す記号として、平仮名や、カタカナなどが彫られています。

**「昔ける」銘の印部土手** 宜野湾市内で印部土手と印部石（遠景）



印部土手と印部石（遠景）



印部土手と印部石（近景）



印部石（近景）

問合せ・文化課 ☎89314430

部石は二〇個ほど確認されていますが、元々の場所から移動されずに印部土手と共に残っているものは、これまで市指定史跡である伊佐「たけたう原」銘の印部土手のみでした。今回確認された印部土手は、楕円形で周囲は崩落を防ぐ石灰石で囲まれています。傾き下部が確認できませんが、土手には石灰岩製の印部石が設置され中央には「う」その右側には「昔ける」「普」は崩し文字で平仮名の「そ」に似ています」と彫られて、現在の小字「総喜路原」を指していると考えられます。

**「おわりに」** 琉球王府が印部土手を基準として作成した地図は、現在の地図と比較しても遜色ない精度であり、近代的な測量が日本本土よりも早い時期に琉球で行われています。今回確認された印部土手は、当時の測量技術の高さを、印部石に彫られた文字は当時の地名を今に伝える重要な文化財です。

茶ぐわーゆんたく 131

五穀豊穣を願って

みなさんは土帝君という神様がいますのをご存知でしょうか。土帝君は中国大陸から伝えられ、部落の守り神・農業の神・航海安全の神として、沖縄の多くの地域で祀られています。宜野湾市では、宜野湾と大謝名の2地域に土帝君の祠があり、現在でも毎年、土帝君の誕生日とされる旧暦2月2日に、祠の前で例祭をおこなっています。今回は宜野湾の土帝君について取り上げます。

宜野湾の土帝君の祠には、土帝君像と土帝君婦人像の2体の神像が安置されています。この像は、台湾より勧請（かんじよう）（神仏を迎えて祀ること）し、1984（昭和59）年3月4日（旧暦2月2日）に遷座（せんざ）（神仏をうつすこと）されました。また、2013（平成25）年6月16日には、宜野湾公民館の裏手に設けられた土帝君広場にある修復された祠で、土帝君遷座祭が行なわれました。宜野湾の土帝君例祭は戦前から行なわれてきた年中祭祀であり、将来に残すべき文化財とされ、2014（平成26）年8月25日付で、市の無形民俗文化財に登録されました。

今年も、3月21日（土）の春分の日が旧暦2月2日にあたり、その日には土帝君例祭が行われる予定です。

土帝君広場には、土帝君の由来などが書かれている解説板も設置されており、また、土帝君例祭の日以外でも、土帝君を拜むことができるそうですので、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



▲土帝君遷座祭の様子



▲土帝君像(左)と土帝君婦人像(右)

※写真：宜野湾の土帝君遷座祭 2013（平成25）年6月16日

「宜野湾市史」への問合せ  
文化課 市史編集係（市立博物館内）  
☎870-9317